

阪神淡路大震災における新聞報道の 時間的推移と地域比較（速報）

山梨大学大学院 ○浅田 賢一
山梨大学大学院 床井 則友
山梨大学工学部 片谷 教孝

研究の概要

地震をはじめ、あらゆる種類の災害は、マス・メディアを通じて大きく報道され、その伝えられた情報は、人々や組織に多大な影響を与えると考えられる。にもかかわらず、これまでに災害報道を扱った研究は数少ない。そこで、本研究では、阪神淡路大震災における時間的変化による災害報道の推移と地域による報道特性の違いを分析することを目的とし、地方紙と全国紙との報道特性の違いを計測することにより、地域による報道特性の違いを検討した。その結果、時間の経過に伴って記事量は減少するものの、多くの要因によって複雑な増減を示すこと、全国紙よりも地方紙の方が記事量が少ないものの全紙面に対する割合では差がないことなどが明らかとなった。

阪神淡路大震災における新聞報道の時間的推移と地域比較(速報)

山梨大学大学院 ○浅田 賢一
山梨大学大学院 床井 則友
山梨大学工学部 片谷 教孝

1 はじめに

地震をはじめ、あらゆる種類の災害は、マス・メディアを通じて大きく報道され、その伝えられた情報は、人々や組織に多大な影響を与えると考えられる。にもかかわらず、これまでに災害報道を扱った研究は数少ない。石鍋^[1]は、新聞報道に着目しその特性を分析し、地域による報道特性の違いについて分析を行なった。本研究では、阪神淡路大震災における時間的変化による災害報道の推移と地域による報道特性の違いを分析することを目的とする。

2 計測方法と分類

2.1 使用データ

本研究では、地方紙と全国紙との報道特性の違いを計測するために『山梨日日新聞』(以下、山日)と『朝日新聞(東京版)』(以下、朝日)の2紙について計測した。

2.2 記事の計測方法

地震関連の記事を計測する際に石鍋は「写真、図表」はその関連する記事に含めて計測を行なっているが、本研究では、「横見出し(面積 [cm²]、文字数)」、「縦見出し記事(面積 [cm²]、記事長 [cm])」、「写真、図表(面積 [cm²])」の3つに分類した。「横見出し」、「写真、図表」は、視覚的な効果があると考えられるため、普通の「縦見出し記事」とは別に計測した。さらに、次に示すような内容についての分類し報道特性を検討した。

2.3 記事内容の分類

記事内容の分類については、表1の24項目に該当する内容に分類(重複可)することにした。

表1 記事内容の分類

地震関連	実行	人的
緊急対応	報告	物的
一次被害	反省・見直	経済的
二次被害	指摘	ライフライン
政策・防災計画	意見	衣食住
支援・救援	批判	
復旧・復興	検討	
義援金	調査	
ボランティア	自粛	その他

3 分析方法

地方紙と全国紙との報道特性の違いを検討するにあたり、本研究ではそれぞれの新聞について地震発生から1ヶ月間(1/18~2/16)の記事の記事に対し、以下の項目について検討を行なった。

- 各記事長の総量
- 各記事面積の日変化
- 各項目別の日変化
- 記事長のページ数に対する割合による比較
- 横見出し、写真・図表の面積による比較

4 結果と考察

4.1 各記事長の総量

新聞で取り扱う記事長の総量をそれぞれ図1、図2に示す。これを見ると、山日では、義援金に関する記事が多いことが目立つ。これは、地方紙特有の個人情報重視の性質により寄付者の個人名まで記載したところによることが大きい。それに対して朝日では、一次災害と政策・防災計画に関する記事が多い。これは、全国紙として被害実態の速報に重点をおいたこと、中央政府の対応に焦点を当てた記事が多かったことを反映している。

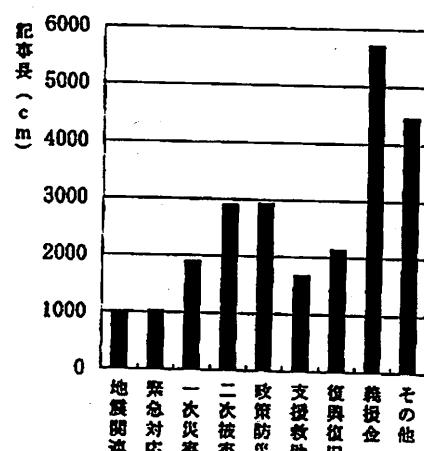


図1 山梨日日新聞の記事長の総量

4.2 各記事面積の日変化

新聞で取り扱う記事面積の日変化を図3に示す。両紙とも全体的には指數減衰的に推移しているが、日によってはかなり大きな凹凸も見られる。特に、1月23日には山日に急激な減少が見られるが、これは前日に県知事選挙が行われた影響である。しかし、朝日の22日前後の減少については特別な理由は見当たらない。山日の25日、朝日の26日に見られる急激な増加は数日前の減少の反動と、緊急対応期から復旧期への移行に伴う記事の増加の2つの要因が考えられる。

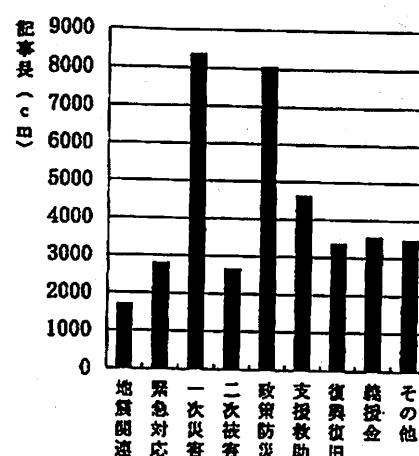


図2 朝日新聞の記事長の総量

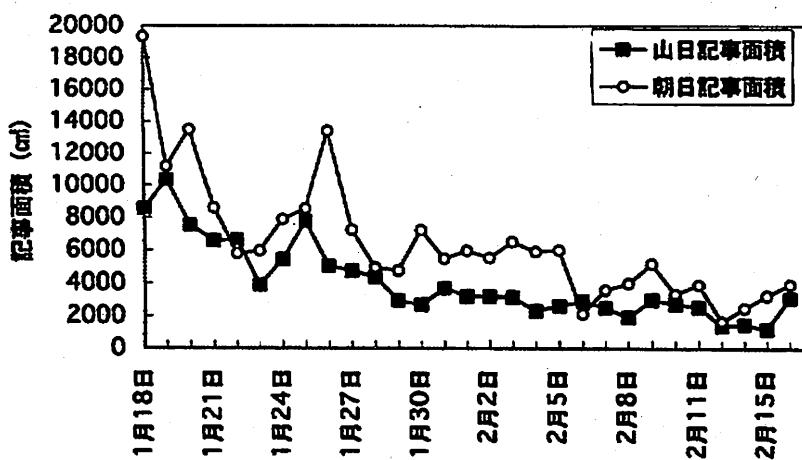


図3 記事面積の日変化

4.3 各項目別の日変化

主要な項目について、各新聞で取り扱う記事の日変化をそれぞれ図4、図5に示す。地震直後は当然ながら被害状況を伝える報道に重点が置かれ、徐々に復興・復旧に関する記事の割合が増えてきていることがわかる。ただし総記事量と比較すると日変化が大きく、日によって報道の重点が細かく変化していることを表している。これらの傾向については、両紙の間に大きな相違は見られない。ただし朝日の場合には一次被害が突出している日があるが、これは被害状況の特集が組まれたためである。

4.4 記事長のページ数に対する割合による比較

記事長のページ数に対する割合を図6に示す。図1、図2に示すように、総記事面積では朝日の方が山日よりも多いが、割合で見れば両者にさほど差がないことがわかる。このことは、新聞記事は常に紙面の制約を受けていることの影響とも考えられるが、このデータだけからでは判断できない。

4.5 横見出し、写真・図表の面積による比較

各新聞の横見出しの量の日変化を図7に示す。地震の翌日に限っては朝日の方が際だって大きな見出しをついているが、その後は山日の方が記事を強調しようとする傾向が強い。これは地域差よりもむしろ、編集方針に依存していると見ると妥当であろう。

つぎに、写真・図表の面積の日変化を図8に示す。地震直後の数日間では両紙に大きな差はないが、10日目頃からは朝日の方がかなり多くなる。これは、朝日の紙面にはこの時期に大小の特集記事が組まれ、そこに多くの写真や図表が用いられているためである。

5 まとめ

今回は速報として、地方紙と全国紙との震後1ヶ月の取り扱う新聞記事の面積とその内容の検討を行うことにより、地域による報道特性の違いを検討した。その結果、時間の経過に伴って記事量は減少するものの、多くの要因によって複雑な増減を示すこと、全国紙よりも地方紙の方が記事量が少ないものの全紙面に対する割合では差がないことなどが明らかとなった。

今後の課題としては、さらに長期間の分析を行なうこと、関西版(被災地近郊)と他の地方紙についても分析することを予定している。

謝辞

本研究のデータ作成には、山梨大学工学部電子情報工学科片谷研究室に在籍する学生全員の協力を得ました。ここに記して深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 石鍋敏夫:「新聞記事に見られる地震災害報道特性の分析」,筑波大学都市防災研究成果集(第1集),pp167-172,1993.

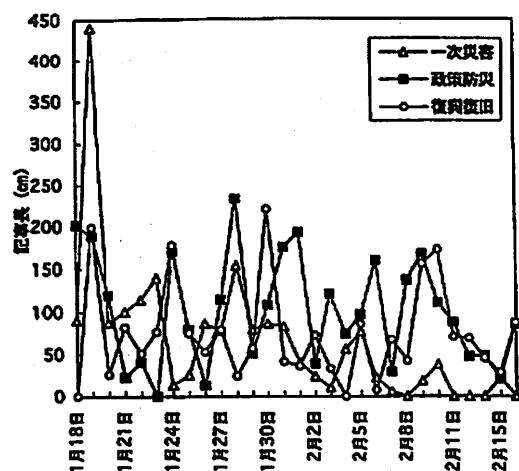


図4 山梨日日新聞の記事の日変化

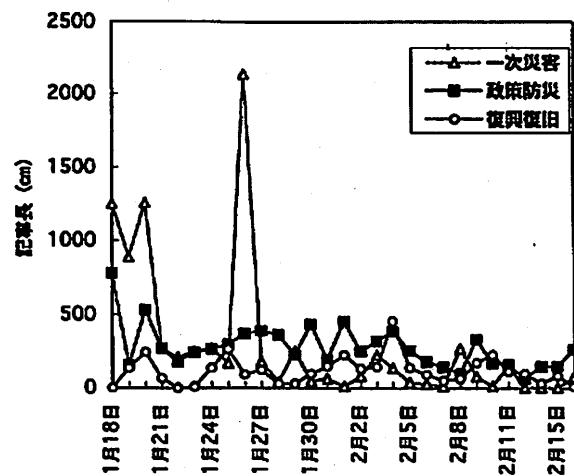


図5 朝日新聞の記事の日変化

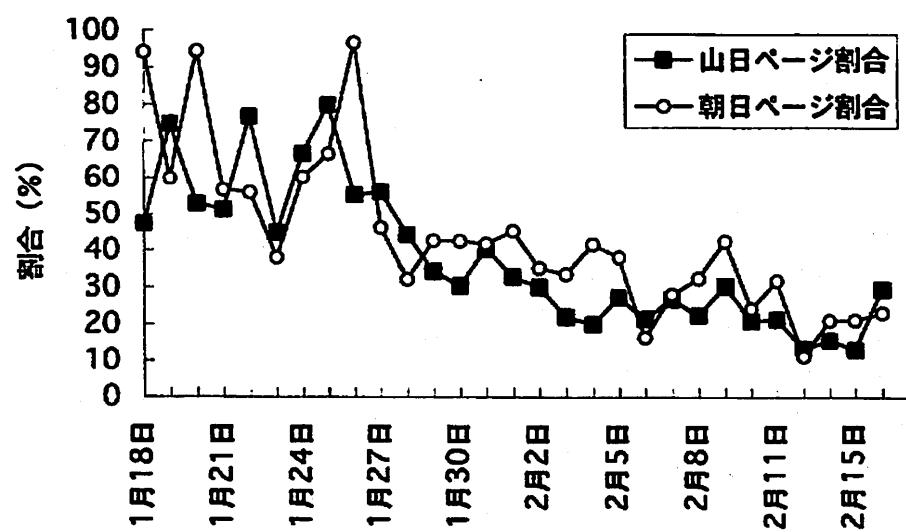


図6 記事長のページ数に対する割合

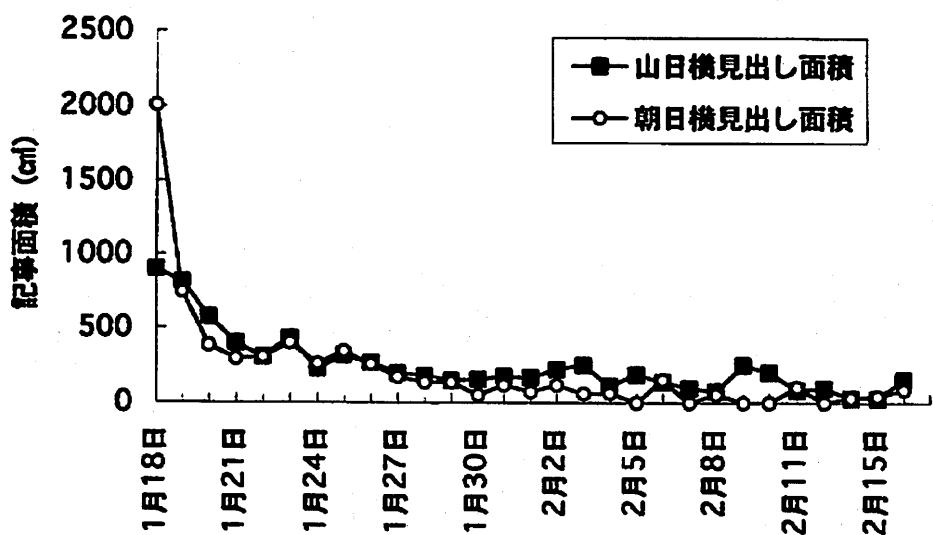


図7 横見出しの量の日変化

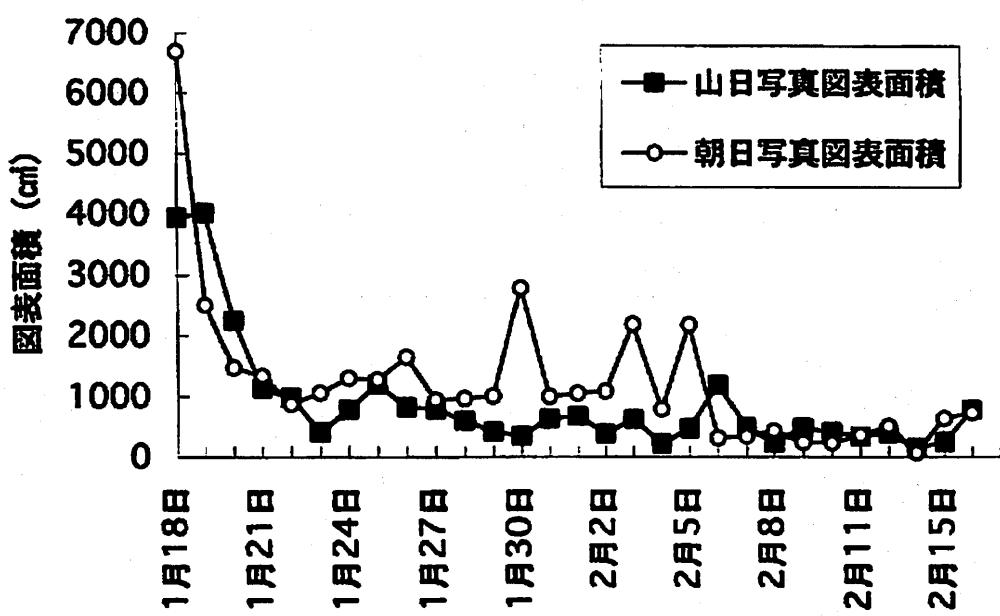


図8 写真・図表の面積の日変化